

## 連想式にみるみる身につく 語源で英単語



〔著者〕

埼玉県立三郷高校教諭  
清水建二

〔監修者〕

元上智大学学長  
William Currie  
立教大学兼任講師  
中田達也

〔制作者一覧〕

本文・カバーイラスト

勝部浩明

ブックデザイン

平塚光明

〈PIDEZA Inc.〉

本文デザイン

斎藤広太

小泉美由紀

〈PIDEZA Inc.〉

録音制作

粕谷光子

高崎清美

〈(株) プレーンズギア〉

ナレーション

Julia Yermakov

福島まりこ

編集協力

今居美月

鶴田万里子

塩沢信司

桂川千津子

〈(有) オプティマ企画編集室〉

編集

芳賀靖彦

〈学研辞典編集部〉

## はしがき

英語がそのまま、あるいは多少変化して日本語に取り込まれたカタカナ語、いわゆる外来語の中には、英単語学習を容易にする重要な手がかりやヒントがたくさん隠されています。たとえば、自転車で「足」を乗せてこぐ部分をペダル(pedal)、「足」の爪に塗るのをペディキュア(pedicure)といいます。私たちはふだん、これらの単語の本来の意味をふり返って考えることはありません。しかし、ちょっと立ち止まって考えてみると、両者に共通しているpedには「足」の意味があることに気づくはず。cureが「治療(する)」という意味だと知っている方は、pedicureの原義が《足(ped)の治療(cure)》だということがわかると思いますが、pedicureは単に「足の爪の手入れ」だけでなく、「足の治療」や「足の専門医」などの意味でも使われるのです。また、ペディキュアよりなじみ深いマニキュア(manicure)が「手の爪の手入れ」であることは言うまでもありません。語根のmaniは「手」を表しますが、これに関しては、本書の82ページをご参照ください。

このように、カタカナ語は、すでに日本語の一部として使われているために、ふだんはその言葉の意味を意識しませんが、ひとたび語根の意味に注意を払うことによって英単語学習の効率性がいっそう高まるのです。では、次の英単語を見てください。

centipede / impede / biped / expedition / peddle / expedite / pedometer

察しの通り、これらはすべて「足」に関係する意味を持った言葉です。centipedeは[centi(百)+足]で「百足(ムカデ)」、impedeは[足をim(中)に入れる]から「妨げる」、bipedは[bi(2つの)足]から「二足動物」、expeditionは[足をex(外)に向ける]ことから「探検」、peddleは[le(繰り返し)足を運ぶ]ことから「行商する」、expediteは[足かせをex(外す)]ことから「手早く片づける」、pedometerは[足をmeter(測る)]から「万歩計」というように、みるみるうちに暗記が定着していくといった具合です。

語根のpedはラテン語に由来しますが、これはギリシア語ではpodやpousに形を変えます。「三脚」はtripod、護岸用の4脚波消しブロックは、「テトラポッド(Tetrapod)」、8本足の「タコ」はoctopusです。ちなみに、これらのpedやpodは音を変えて、foot(足)として、英語の中に入ってきました。このように、pedという語根とその他の語根や接頭辞・接尾辞などと結びつけることによって、体系的に学習できる、というのが語源学習の最大のメリットと言えるでしょう。

本書では導入部分として、カタカナ語を取り上げ、それにイラストを付すことにより、